慢性化膿性中耳炎における細菌の動向について

九州大学耳鼻科　山田篤伸・平島直子
田中鴻一郎

慢性化膿性中耳炎の場合，耳漏発現のたびにいろいろな方法によつて抗生物質の投与がなされているが，その際一番問題になるのがその起炎菌および薬剤感受性である．私共は1967年，1968年の2年間に九大および福岡市浜の町病院を訪れた慢性中耳炎患者の耳漏より分離された細菌について調査したが，今回最近1年間の九大における同様の調査を行なつたので，その成績を比較検討した．

すなわち，1967年，1968年の調査では，総株数236株中グラム陰性桿菌が132株で56％，グラム陽性球菌は104株で44％を占めている．グラム陰性桿菌では緑膿菌・変形菌合せて32株あり，総株中33.6％を占めている．またグラム陽性球菌では黄色ブドウ球菌が74株31.4％，これに次いで表皮ブドウ球菌が多く検出された．これに対して最近1年間では総株数215株中グラム陰性桿菌は48％，陽性球菌は52％と両者に大きな差は認めない．緑膿菌・変形菌の占める割合には総株中30.2％で1967年，1968年の結果と有意の差はなかつた．グラム陰性桿菌のみの内訳をみると，今回の調査では緑膿菌が40.9％と最も多く，次いで変形菌20.9％，大腸菌16.6％の順である．グラム陽性球菌では黄色ブドウ球菌が16.7％と減少した反面，表皮ブドウ球菌が19.5％と増加している．しかしブドウ球菌全体の比率をみると，前回および今回ともに40％内外で大差を認めなかつた．

各菌の薬剤感受性については3濃度ディスク法を用いた．黄色ブドウ球菌では前回，今回の両調査ともMCI-PC，MPI-PC，セフアロスポリン系，GM，Panfuranに対する感受性が高く，表皮ブドウ球菌についてもほぼ同様の成績を得たが，全般的に黄色ブドウ球菌よりも各種薬剤に感受性が高いようである．グラム陰性桿菌とくに緑膿菌についてみると，GM，CL，次いでPL-Bに対して感受性が高い．その他のグラム陰性桿菌ではGM，Panfuranなどが高感受性である．

以上の成績をまとめると 1）1967年，1968年の調査と1971年の調査では慢性中耳炎耳漏よりの検出菌種および薬剤感受性に著差なく，グラム陽性菌と陰性菌がほぼ同率にみられた．2）グラム陰性桿菌のうち緑膿菌・変形菌の占める割り合いが高く，グラム陽性菌では黄色ブドウ球菌・表皮ブドウ球菌が高頻度であつた．3）薬剤感受性ではグラム陽性球菌は耐性ブ菌用PC，セフアロスポリン剤，GM，Panfuranに対し高感受性であり，グラム陰性桿菌ではGM，CL，PL-Bなどが感受性が高かつた．

〔質問〕馬場駿吉（名市大）：Panfuranは試験管内抗菌力はよいが，吸収が悪い．その臨床効果は如何でしたか．

〔応答〕山田篤伸（九大）：臨床のdataとしては使用した症例が殆んどないのでわからない．